

根釧東部 16 の結果概要

：根釧東部-南

1010 林班 か小班

2020 年 7 月 13 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		平坦		2	2	2014-18 年 7.0	累積 9.8	シカ道・足跡・糞・食痕
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	24 /200 m ²	16.9 m ² /ha	10 /200 m ² 食痕:14 70%(60%)			3 /200 m ²	11/29 38%(0%)	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	16 /200 m ²	11/16 69%(63%)		73	0% ・ - ・ 0%		42% ・ 0.204	

※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
トドマツ	19	4,647	1	0	
キハダ	3	2,920	0		
ダケカンバ	2	1,553	0		
アオダモ	9	1,367	8	7	9
シウリザクラ	9	1,103	8	6	2
総計	48	13,488	21	14	11

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
シウリザクラ	13	11
オニグルミ	3	
トドマツ	1	
総計	17	11

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m/m)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
サラシナショウマ	10	0.073	8.3	62	0
ミミコウモリ	14	0.059	14.0	31	0
ヤマドリゼンマイ	4	0.020	2.8	74	1
ヨブスマソウ	13	0.01712	2.4	46	2
オシダ	2	0.00806	1.1	46	0



根室市落石担当区の九番沢林道入り口付近で、平坦な尾根沿いの針広混交林に調査区を設定している。西側には温根沼があり、湿地林や湿地が隣接している。最近 5 年の SPUE は 7.0 と高密度であり、累積 SPUE は 9.8 とさらに高い。

最優占種はトドマツで、その他にキハダ、ダケカンバ、アオダモなどが多い。下枝の密度は 10 本と低く、小径木も少ない。樹皮剥ぎ率は 4 割近くと高く、下枝食痕率は 70%で夏季食痕率も 60%と極めて高い。稚樹は 16 本と少なくシウリザクラがほとんどを占め、食痕率は 69%と下枝同様に極めて高い。林床はササがなく、出現種は 73 種と多いが、総被度は 42%である。サラシナショウマ、ミミコウモリなどが優占する。

一年を通じての利用が見られることや、以前からエゾシカの被食の影響を強く受けており、林分は影響がかなり蓄積されている状況である。

根釧東部 17 の結果概要

：根釧東部-南 1005 林班 に小班 2020 年 7 月 13 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		緩斜面	北西	1	2	2014-18 年 8.6	累積 8.7	シカ道・足跡・糞・生体・食痕
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	41 /200 m ²	37.6 m ² /ha	24 /200 m ² 食痕:21 88%(46%)			6 /200 m ²	27/31 87%(0%)	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	0 /200 m ²	-/- -%			43	0% ・ - ・ 0%	114% ・ 0.722	

※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
ダケカンバ	2	4,918	1	0	
アオダモ	24	4,624	22	20	24
トドマツ	10	3,794	8	0	
ナナカマド	2	936	1	1	2
キハダ	2	541	0		
総計	41	15,032	32	21	27

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
トドマツ	14	
総計	14	

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
シラネウラボ	17	0.210	32.7	57	0
サラシナショウマ	18	0.164	23.3	61	1
トドマツ	7	0.109	7.2	73	0
ミミコウモリ	14	0.083	12.8	48	0
オシダ	10	0.074	11.7	57	0



根室市落石担当区の落石林道入り口付近で、沢沿いの針広混交林に調査区を設定している。周辺の小班は人工林が隣接している。最近 5 年の SPUE は 8.6、累積 SPUE も 8.7 と、長期間にわたり高密度な状態が続いている。

樹木の優占種はダケカンバ、アオダモ、トドマツなどで、小径木は 6 本と少ない。樹皮剥ぎ率は 87%に達し、アオダモはは全て樹皮はぎが見られた。下枝食痕率も 88%と極めて高く、夏季食痕率も 46%を占めた。稚樹は見られなかった。林床はササがなく、出現種は 43 種で総被度は 114%である。シラネウラボ、サラシナショウマ、トドマツ、ミミコウモリなどエゾシカの嗜好性の低い植物が優占した。

エゾシカの利用は冬季が中心であり、以前からエゾシカの被食の影響を強く受け、林分は影響がかなり蓄積されている。

根釧東部 2 の結果概要 : 根釧東部-西 436 林班ら小班 2013 年 9 月 13 日/2020 年 7 月 15 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ミズナラ)		平坦	なし	1	2	2009-13 年 4.1	累積 3.5	食痕
				1	2	2014-18 年 2.3	累積 3.3	足跡・食痕
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	30 /200 m ²	11.8 m ² /ha	23 /200 m ² 食痕:21 91%			10 /200 m ²	0/30 0%(0%)	
	20 /200 m ²	13.6 m ² /ha	10 /200 m ² 食痕:5 50%(40%)			1 /200 m ²	0/20 0%(0%)	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	0 /200 m ²	-/- -%			16	73% ・ 70 ・ 20%	104% ・ 0.635	
	0 /200 m ²	-/- -%			21	71.0% ・ 85 ・ 0%	87% ・ 0.681	

※数値の上段は 2013 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm)	下枝あり(本)	食痕あり	樹皮剥(本)
ミズナラ	20	5,439	10	5	
総計	20	5,439	10	5	

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり(本)
なし		

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
ミヤコザサ	20	0.603	71.0	85	0
トクサ	20	0.024	4.8	48	19
ウスイロスゲ	18	0.022	4.1	43	0
カラマツソウ属の一種	17	0.010	1.5	56	2
ネムロブシダマ	6	0.009	2.4	31	3



中標津町西春別の虹別林道沿いの広葉樹林に設定されている。周辺はカラマツやトドマツの人工林に囲まれた小規模な天然林である-南 PUE は 4.1 (2009-2013 年) から、2.3 (2014-2018 年) へと減少している。

林相はミズナラ林であり、林冠木は全てミズナラが占める。下枝本数は、23 本から 10 本へと半数以下に減少し、小径木もほとんど消失した。下枝食痕率は 50%で前回 (91%) よりも低下したものの依然として高かった。前回と同様に稚樹は見られなかった。

林床はミヤコザサが密生していたが、食痕は見られなかった。トクサは食痕率が極めて高かった。小径木の消失は密度効果による面もあり、全体的に林分に与えるエゾシカの影響は軽微である。

根釧東部 4 の結果概要 : 根釧東部-西 448 林班よ小班 2013 年 9 月 12 日/2020 年 7 月 15 日調査

林相			地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ミズナラ)			平坦	なし	2	2	2009-13 年	3.0	食痕
					2	2	2014-18 年	2.9	食痕
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	27 /200 m ²	16.6 m ² /ha	13 /200 m ² 食痕:17 68%			9 /200 m ²	1 /25 4%(0%)		
	24.5 /200 m ²	17.7 m ² /ha	8.5 /200 m ² 食痕:4 24%(12%)			9 /200 m ²	2 /49 4%(0%)		
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	1 /200 m ²	0 /1 0%			8	82% ・ 78 ・ 35%		102% ・ 0.707	
	0 /200 m ²	- /- -%			15	90.3% ・ 95 ・ 0%		95% ・ 0.879	

※数値の上段は 2013 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

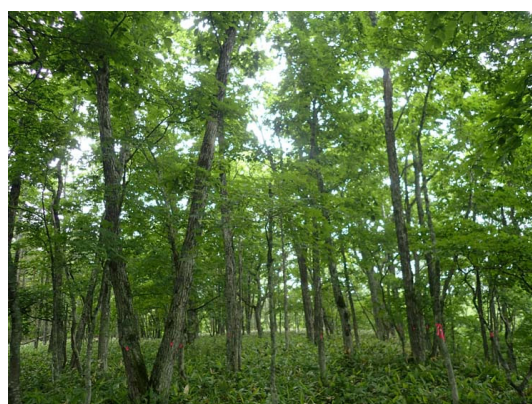
種 名	本数 (本)	総BA (cm)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
ミズナラ	24	12,110	5	1	
シラカバ	3	1,011	0		
イタヤカエデ	16	756	7	1	2
ハルニレ	2	197	2	0	
ハシドイ	4	75	3	2	
総計	49	14,147	17	4	2

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
なし		

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
ミヤコザサ	20	0.864	90.3	95	0
サッポロスゲ	17	0.009	2.1	32	0
カラマツソウ属の一種	11	0.003	0.6	32	0
ウスイロスゲ	7	0.002	0.6	33	0
ハシドイ	1	0.001	0.2	56	1



中標津町養老牛の道道沿いで、川沿いの広葉樹林に調査区を設定している。周辺はカラマツやトドマツの人工林に囲まれている-南 PUE は 3.0 (2009-2013 年) から、2.9 (2014-2018 年) と変化はほとんどなく、低密度の状態が続いている。

林相はミズナラ林であり、林冠木はほとんどをミズナラが占め、下層はイタカカエデが多い。下枝は 13 本から 8.5 本へと低下した。下枝食痕率は 24%で前回 (68%) よりも低下した。前回と同様に稚樹は見られなかった。

林床はミヤコザサが密生したが、今回は食痕は確認されなかった。その他の林床出現種も、ほとんど食痕は見られなかった。全体的に林分に与えるエゾシカの影響は軽微である。

根釧東部 O5 の結果概要 根釧東部-西 489 林班そ小班 2013 年 9 月 11 日/2020 年 7 月 15 日調査

林相		地形		方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
広葉樹林(オニグルミ等)		緩斜面		南東	1	2	2009-13 年 2.9	累積 2.9	食痕	
					1	2	2014-18 年 3.0	累積 2.7	シカ道・足跡・食痕	
毎木	本数密度	総 BA		下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	84 /200 m ²	16.2 m ² /ha		47 /200 m ² 食痕:21 45%			34 /200 m ²	0/84 0%(0%)		
	67 /200 m ²	16.9 m ² /ha		40 /200 m ² 食痕:7 18%(13%)			24 /200 m ²	1/67 1%(0%)		
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)			林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	2 /200 m ²	2/2 100%				1	85% ・ 107 ・ 20%		85% ・ 0.910	
	0 /200 m ²	-/- -%				10	98.5% ・ 147 ・ 0%		106% 1.548	

※数値の上段は 2013 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
オニグルミ	7	2,613	1	0	
オヒョウ	7	1,122	3	0	1
ハルニレ	11	706	8	1	
ハシドイ	33	597	26	6	
ケヤマハンノキ	1	485	1	0	
総計	67	6,767	40	7	1

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
なし		

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	1.446	98.5	147	0
ハシドイ	10	0.097	6.7	123	3
ハルニレ	2	0.003	0.3	94	0
コンロンソウ	1	0.001	0.2	56	0
ミヤマシケダ	1	0.001	0.3	27	0



中標津町開陽の虹別林道沿いの広葉樹林に調査区を設定している。周辺はカラムツやトドマツの人工林に囲まれている-南 PUE は 3.0 (2009-2013 年) から、2.9 (2014-2018 年) と変化はほとんどなく、低密度の状態が続いている。

林相はオニグルミやハルニレ・オヒョウ、ハシドイが見られる湿性林である。下枝本数は 47 本から 40 本へと微減した。下枝食痕率は、45%から 18%へと低下した。稚樹は前回も 2 本のみだったが、今回消失した。

林床はクマイザサが密生したが、今回は食痕は確認されなかった。その他の林床出現種では、ハシドイなどで食痕が見られた。更新にはササが大きな影響を与えており、全体的に林分に与えるエゾシカの影響は軽微である。

根釧東部 08 の結果概要 根釧東部-西 511 林班は 02 小班 2013 年 9 月 10 日/2020 年 7 月 14 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(オヒョウ等)		斜面	北西	1	2	2009-13 年 4.3	累積 3.0	食痕
				1	2	2014-18 年 1.3	累積 2.2	シカ道・食痕
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	45 /200 m ²	10.6 m ² /ha	34 /200 m ² 食痕:6 18%			17/200 m ²	9／41 22%(2%)	
	38 /200 m ²	10.1 m ² /ha	28 /200 m ² 食痕:0 0%(0%)			17/200 m ²	7／38 18%(1%)	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	13 /200 m ²	1／13 8%			35	15% ・ 80 ・ 0%	87% ・ 0.411	
	23 /200 m ²	5／23 22%(0%)			47	16.1% ・ 93 ・ 0%	87% ・ 0.583	

※数値の上段は 2013 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

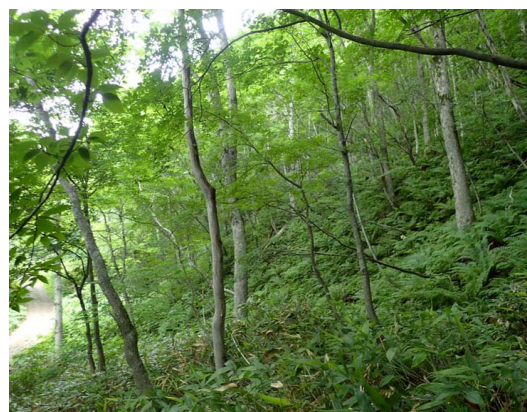
種 名	本数 (本)	総BA (cm)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
オヒョウ	3	2,053	1	0	
イタヤカエデ	13	864	8	0	
アオダモ	13	660	13	0	6
キハダ	1	199	0		1
ダケカンバ	2	105	2	0	
総計	38	4,022	28	0	7

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
ノリウツギ	14	5
ハシドイ	3	
オヒョウ	2	
シウリザクラ	2	
ヤマグル	2	
総計	23	5

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	10	0.181	16.1	93	0
オシダ	14	0.131	19.8	62	1
シラネウラボ	12	0.060	11.8	46	0
アオダモ	4	0.030	2.75	112	0
イワガネゼンマイ	4	0.029	3.8	68	0



中標津町開陽の俣落連絡林道沿いの斜面にある広葉樹林に設定している・南 PUE は 4.3 (2009-2013 年) から、1.3 (2014-2018 年) へと大きく低下し、より低密度になっている。

林相は林冠にオヒョウ、イタヤカエデ、アオダモなどが優占する。下枝食痕率は 18%から 0%へ低下し、今回は食痕は見られなかった。稚樹は 13 本から 23 本へと増加し、ノリウツギが多くを占めた。稚樹食痕率は 8%から 22%へと増加した。

林床はクマイザサが疎性するが、食痕は見られなかった。その他の林床出現種では、オシダなどで食痕が見られたがわずかだった。稚樹も増加しており、全体的に林分に与えるエゾシカの影響は軽微である。

根釧東部 09 の結果概要 根釧東部-西 512 林班や小班 2013 年 9 月 10 日 / 2020 年 7 月 14 日調査

林相		地形		方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡		
広葉樹林(ミズナラ等)		緩斜面		南	1	2	2009-13 年	5.4	累積	4.0	食痕
					1	2	2014-18 年	3.3	累積	4.0	足跡
毎木	本数密度	総 BA		下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満		樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	81 /200 m ²	25.8 m ² /ha		52 /200 m ² 食痕:13 25%			29 /200 m ²		7/81 9%(0%)		
	69 /200 m ²	26.3 m ² /ha		39 /200 m ² 食痕:0 0%(0%)			24 /200 m ²		3/69 4%(0%)		
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)			林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²		
	6 /200 m ²	5/6 83%				6	82% ・ 123 ・ 0%		83% ・ 1.015		
	0 /200 m ²	-/- -%				12	94.8% ・ 140 ・ 0%		99% ・ 1.371		

※数値の上段は 2013 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

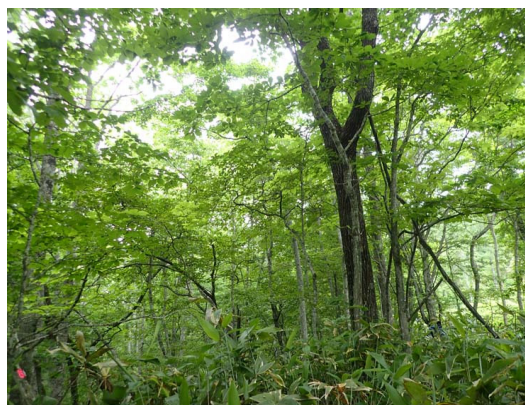
種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
ハリギリ	3	2,568	0		
ミズナラ	2	2,101	0		
イタヤカエデ	6	1,178	2	0	
ヤチダモ	3	776	0		
ヤマグワ	4	688	1	0	
総計	69	10,509	39	0	3

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
なし		

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	1.326	94.8	140	0
ハルニレ	5	0.024	1.5	161	0
ハシドイ	3	0.012	0.8	110	0
ヤマブドウ	2	0.004	0.3	118	0
シナノキ	1	0.002	0.2	150	0



中標津町開陽のクテグンベツ林道沿いの広葉樹林に調査区を設定している-南 PUE は 5.4 (2009-2013 年) から、3.3 (2014-2018 年) へと低下している。

林相は林冠にミズナラ、ハリギリ、イタヤカエデなどが優占する。下枝本数は 52 本から 39 本へ減少し、下枝食痕率は 25%から 0%へ低下し、今回は食痕は見られなかった。稚樹は前回の 6 本から消失した。

林床はクマイザサが密生するが、食痕は見られなかった。その他の林床出現種でも、食痕が見られなかった。稚樹は消失しているが、更新にはササが大きな影響を与えており、全体的に林分に与えるエゾシカの影響は軽微である。

根釧東部 10 の結果概要 根釧東部-東 13 林班で小班 2013 年 9 月 17 日 / 2020 年 7 月 14 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(オヒョウ)		平坦	なし	1	2	2009-13 年 2.5	累積 3.4	食痕
				1	2	2014-18 年 0.9	累積 2.0	シカ道・足跡・食痕
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	45 /200 m ²	18.8 m ² /ha	28 /200 m ² 食痕:9 32%			18 /200 m ²	0/42 0%(0%)	
	45 /200 m ²	24.3 m ² /ha	16 /200 m ² 食痕:4 25%(6%)			10 /200 m ²	1/37 3%(0%)	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²
	0 /200 m ²	-/- -%			4	99% ・ 158 ・ 0%		102% ・ 1.617
	0 /200 m ²	-/- -%			6	97.5% ・ 177 ・ 0%		99% ・ 1.751

※数値の上段は 2013 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

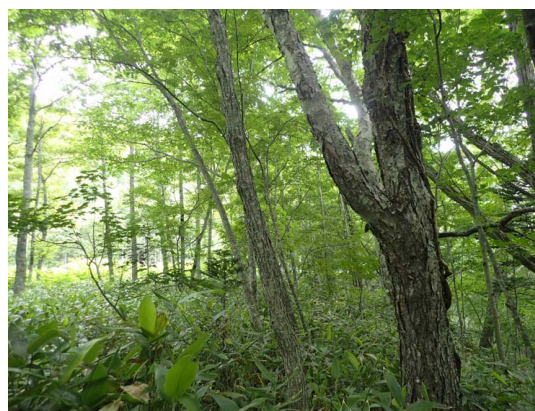
種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
オヒョウ	7	3,058	3	0	
ダケカンバ	2	2,890	0		
アオダモ	5	610	5	0	
ミズナラ	2	434	0		
イタヤカエデ	9	222	4	3	1
総計	38	7,986	17	4	1

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
なし		

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	1.727	97.5	177	0
アオダモ	20	0.011	0.8	22	1
ノリウツギ	2	0.008	0.6	121	1
オヒョウ	1	0.003	0.2	198	0
ヨブスマソウ	1	0.001	0.15	95	0



標津町(川北担当区)の国道 244 号沿いに広がる針広混交林(広過混交林)に設定している・南 PUE は 2.5 (2009-2013 年) から、0.9 (2014-2018 年) へと低下し、より低密度になっている。

林相はオヒョウ、ダケカンバなどの広葉樹が多く生育する二次林である。下枝本数は 28 本から 16 本へ減少し、下枝食痕率は 32%から 25%へ低下した。稚樹は前回と同様に見られなかった。

林床はクマイザサが密生するが、食痕は見られなかった。その他の林床出現種では、アオダモやノリウツギでわずかに食痕が見られた。更新にはササが大きな影響を与えており、全体的に林分に与えるエゾシカの影響は軽微である。

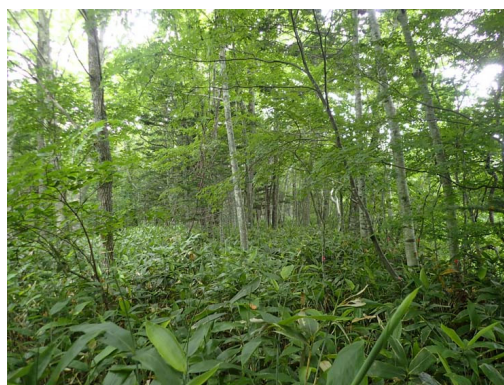
根釧東部 11 の結果概要 根釧東部-東 79 林班ち小班 2013 年 9 月 18 日 / 2020 年 7 月 14 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(ダケカンバ・ミズナラ)		平坦	なし	1	2	2009-13 年 5.1	累積 3.8	食痕
				1	2	2014-18 年 3.3	累積 4.6	シカ道・食痕・生体 3
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	99 /200 m ²	34.4 m ² /ha	30 /200 m ² 食痕:1 3%			35 /200 m ²	23／75 31%(3%)	
	88 /200 m ²	39.4 m ² /ha	26 /200 m ² 食痕:2 8%(4%)			27 /200 m ²	21／76 28%(0%)	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²
	0 /200 m ²	—／— -%			2	93% ・ 139 ・ 0%		93% ・ 1.293
	0 /200 m ²	—／— -%			6	93.8% ・ 146 ・ 0%		94% ・ 1.370

※数値の上段は 2013 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
ダケカンバ	7	4,846	0		
ミズナラ	11	3,784	2	0	
トドマツ	11	1,831	3	0	3
シナノキ	1	979	0		
ハリギリ	4	941	0		
総計	88	15,759	29	2	21



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
なし		

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	1.369	93.8	146	0
ホオノキ	1	0.001	0.1	173	0
イタヤカエデ	1	0.001	0.1	147	1
アオダモ	9	0.000	0.1	8	1
マイヅルソウ	1	0.000	0.1	7	0



標津町(川北担当区)の金山薫別林道沿いの針広混交林(広過混交林)に設定している-南 PUE は 5.1 (2009-2013 年) から、3.3 (2014-2018 年) へと低下している。

林相はダケカンバ、ミズナラなどの広葉樹が多く生育する二次林である。下枝本数は 30 本から 26 本へ微減し、下枝食痕率は 3% から 8% と低い水準で推移している。稚樹は前回と同様に見られなかった。樹皮はぎは古いものも含めると 28% で前回と同様の数値だったが、新規のものは見られなかった。

林床はクマイザサが密生するが、食痕は見られなかった。その他の林床出現種では、イタヤカエデやアオダモで食痕が見られた。更新にはササが大きな影響を与えており、全体的に林分に与えるエゾシカの影響は軽微である。

根釧東部 13 の結果概要 根釧東部-東 84 林班る小班 2013 年 9 月 18 日 / 2020 年 7 月 14 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(ヤチダモ・ミズナラ)		平坦	なし	1	2	2009-13 年 5.1	累積 3.8	食痕
				1	2	2014-18 年 3.3	累積 4.6	食痕・生体 1
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	54 /200 m ²	20.9 m ² /ha	23 /200 m ² 食痕: 2 9%			14 /200 m ²	0/52 0%(0%)	
	45 /200 m ²	22.0 m ² /ha	18 /200 m ² 食痕: 3 17%(6%)			6 /200 m ²	2/44 5%(0%)	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	0 /200 m ²	-/- -%			5	100% ・ 147 ・ 0%	103% ・ 1.534	
	0 /200 m ²	-/- -%			12	95.8% ・ 165 ・ 0%	100% ・ 1.643	

※数値の上段は 2013 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
ヤチダモ	12	2,765	1	1	
ミズナラ	8	2,032	4	0	
オヒョウ	6	1,554	3	0	2
ハリギリ	1	872	0		
キハダ	3	563	0		
総計	45	8,818	19	3	2

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
なし		

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	1.576	95.8	165	0
ノリウツギ	2	0.053	3.5	149	2
イタヤカエデ	2	0.013	0.8	175	2
オヒョウ	1	0.001	0.1	157	0
クルマバツクバネソウ	1	0.000	0.1	20	0



標津町(峰浜担当区)の薫別林道沿いの針広混交林(広過混交林)に設定している-南 PUE は 5.1 (2009-2013 年) から、3.3 (2014-2018 年) へと低下している。

林相は、ヤチダモ、ミズナラ、オヒョウなどの広葉樹が混生する二次林である。下枝本数は 23 本から 18 本へ微減し、下枝食痕率は 9% から 17% と低い水準で推移している。稚樹は前回と同様に見られなかった。樹皮はぎはオヒョウに新たに確認された。

林床はクマイザサが密生するが、食痕は見られなかった。その他の林床出現種では、ノリウツギやイタヤカエデで食痕が見られた。更新にはササが大きな影響を与えており、全体的に林分に与えるエゾシカの影響は軽微である。

網走南部 O4 の結果概要

網走南部-南 1023 林班い小班

2013 年 9 月 12 日 /2020 年 7 月 16 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡		
針広混交林(ケヤマハンノキ・ヤチダモ)		平坦	なし	1	1	2009-13 年	4.7	累積	3.9	食痕
				1	2	2014-18 年	2.7	累積	2.9	足跡・食痕
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満		樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	33 /200 m ²	34.9 m ² /ha	21 /200 m ² 食痕:17 81%			11 /200 m ²		5/31 16%(6%)		
	29 /200 m ²	31.2 m ² /ha	18 /200 m ² 食痕:12 67%(33%)			10 /200 m ²		5/29 17%(1%)		
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²		
	104 /200 m ²	37/52 71%			40	0% ・ － ・ －%		92% ・ 0.523		
	58 /200 m ²	49/58 84%			44	0% ・ － ・ －%		49% ・ 0.282		

※数値の上段は 2013 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
ケヤマハンノキ	8	7,060	7	2	
ヤチダモ	2	1,717	1	1	
イタヤカエデ	3	1,425	0		1
イチイ	2	808	0		2
キハダ	1	590	0		
総計	29	12,461	18	12	5

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
シウリザクラ	52	45
ハルニレ	3	2
オガラバナ	2	2
イタヤカエデ	1	
エゾマツ	1	
総計	59	49

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
イッポンワラビ	15	0.119	21.2	50	4
シラネワラビ	8	0.047	6.4	71	8
オシダ	15	0.047	6.6	67	14
ヨブスマソウ	10	0.013	1.6	60	1
シウリザクラ	11	0.012	1.4	69	8



清里町南部(青葉担当区)のタラタツペ林道沿いに広がる針広混交林(広過混交林)に調査区を設定している。近くにタラタツペ沢(タラタツペ川)が流れる。やや湿潤な環境のためケヤマハンノキが優占し、ヤチダモやイタヤカエデなどが混生する。林床は、イッポンワラビをはじめシダ植物が多く、クマイザサなどササ類は生育しない。直近の SPUE は 2.7 となっている。下枝がある立木(広葉樹)は前回の 21 本から 18 本に減少し、このうちの 67%に食痕が見られた。また、イチイやイタヤカエデを中心に樹皮剥ぎが認められた。針葉樹を除く高さ 30cm 以上の稚樹はシウリザクラなどの計 58 本で、このうちの 84%に食痕が確認された。林床植物にも多くの植物で食痕が確認された。特に、オシダは 20 区中 14 区で食痕が見つかり、平均被度は前回の 38%から 6.6%に減少した。また、通常、不嗜好性が強いイッポンワラビやシラネワラビでも高い食痕率を示している。なお、ササの植被が薄いのはこの付近一帯の特徴で、屈斜路火山の火砕流堆積物の上に成立した植生であることが要因と考えられる。

網走南部 05 の結果概要 網走南部-南 1022 林班い小班 2013 年 9 月 12 日/2020 年 7 月 16 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林 (キハダ・ハルニレ)		平坦	なし	1	1	2009-13 年	3.8	食痕
				1	2	2014-18 年	1.3	シカ道・足跡・食痕
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率 (夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	80 /200 m ²	18.6 m ² /ha	45 /200 m ² 食痕:18 40%			56 /200 m ²	7/72 10%(0%)	
	73 /200 m ²	19.2 m ² /ha	49 /200 m ² 食痕:14 29%(12%)			47 /200 m ²	11/67 16%(0%)	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率 (夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	144 /200 m ²	48/72 67%			55	0% ・ — ・ —%	83% ・ 0.385	
	58 /200 m ²	41/67 61%(10%)			56	0.1% ・ 68 ・ 0%	83% ・ 0.558	

※数値の上段は 2013 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり	樹皮剥(本)
キハダ	5	2,387	1	0	
ハルニレ	1	1,904	0		
シウリザクラ	42	1,260	35	8	8
エゾマツ	6	647	4	0	
ヤチダモ	1	514	0		
総計	73	7,676	53	14	11

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり(本)
シウリザクラ	65	39
エゾマツ	2	
ツリバナ	1	1
トドマツ	1	
ノリウツギ	1	1
総計	70	41

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
オシダ	16	0.186	28.9	61	1
シウリザクラ	14	0.088	6.1	97	11
ヤマドリゼンマイ	8	0.081	9.1	74	3
エゾノレイジンソウ	13	0.049	7.9	51	1
キタゴボシ	3	0.036	2.7	110	1



清里町南部 (青葉担当区) のタラタツペ林道沿いに広がる針広混交林 (広過混交林) に調査区を設定している。近くにタラタツペ沢 (タラタツペ川) が流れる。やや湿潤な環境でキハダが優占し、ハルニレやシウリザクラなどが混生する。林床は、オシダなどのシダやシウリザクラなどの稚樹が多く、一部にミヤコザサが生育するのみである。直近の SPUE は 1.3 となっている。下枝がある立木 (広葉樹) は 49 本あり、このうちの 12% に食痕が見られた。また、シウリザクラを中心に樹皮剥ぎが 16% で認められた。

針葉樹を除く高さ 30cm 以上の稚樹はシウリザクラなどの計 67 本で、61% に食痕が確認された。オシダやシウリザクラなど多くの林床植物に食痕が確認されたが、前回から大きく被度が減少した種はなかった。

網走南部 06 の結果概要

網走南部-南 1040 林班い小班

2013 年 9 月 12 日/2020 年 7 月 16 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(トドマツ・イタヤカエデ)		平坦	なし	2	1	2009-13 年	3.9	食痕
				2	2	2014-18 年	4.4	シカ道・食痕
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	19 /200 m ²	15.7 m ² /ha	15 /200 m ² 食痕: 4 27%			11 /200 m ²	5/23 22%(0%)	
	15.5 /200 m ²	16.4 m ² /ha	11 /200 m ² 食痕: 6 55%(0%)			6 /200 m ²	3/18 17%(1%)	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	182 /200 m ²	52/91 57%		45	0% ・ — ・ —%		70% ・ 0.331	
	86 /200 m ²	47/86 55%(3%)		51	0% ・ — ・ —%		90% ・ 0.634	

※数値の上段は 2013 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

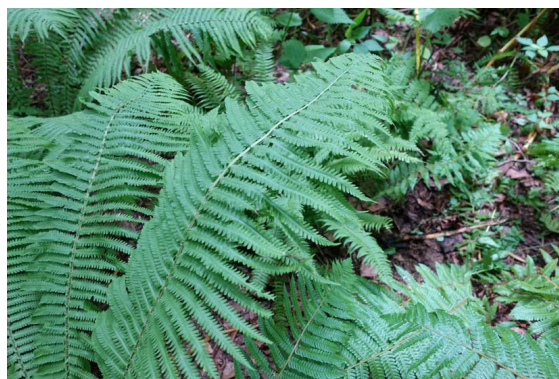
種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
トドマツ	6	5,793	1	0	
イタヤカエデ	4	3,724	0		
ヤチダモ	1	1,345	0		
エゾマツ	7	1,018	4	0	
モイワボダイジュ	1	656	1	1	
総計	31	13,088	15	5	3

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
シウリザクラ	84	47
キタコブシ	1	
トドマツ	1	
ノリウツギ	1	
総計	87	47

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
オシダ	19	0.251	33.3	70	2
ヨブスマソウ	9	0.086	5.6	114	1
エゾノレイジソウ	18	0.079	10.4	60	0
イッポンワラビ	10	0.059	7.9	53	0
ムカゴイラクサ	18	0.036	8.5	33	1



清里町南部(緑担当区)のアタクチャ林道沿いに広がる針広混交林(針過混交林)に調査区を設定している。近くにアタクチャ川が流れる。トドマツが優占し、エゾマツも多く生育するが、やや湿潤な環境のためヤチダモなども混生する。林床は、オシダをはじめシダ植物が多く、クマイザサなどササ類は生育しない。直近の SPUE は 4.4 となっている。下枝がある立木(広葉樹)は 11 本/200m² あり、このうちの 55% に食痕が見られた。また、トドマツに樹皮剥ぎ(角こすり)も認められた。

針葉樹を除く高さ 30cm 以上の稚樹はシウリザクラなどの計 86 本で、このうちの 55% に食痕が確認された。なお、ササの植被が薄いのはこの付近一帯の特徴で、屈斜路火山の火砕流堆積物の上に成立した植生であることが要因と考えられる。オシダやヨブスマソウなどの林床植物に食痕が確認されたが、前回から大きく被度が減少した種はなかった。

網走南部 07 の結果概要 網走南部-南 1070 林班い小班 2013 年 9 月 12 日/2020 年 7 月 16 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林 (ヤチダモ・ハシドイ)		平坦	なし	1	1	2009-13 年 3.9	累積 4.4	糞・食痕
				1	2	2014-18 年 4.4	累積 4.0	シカ道・食痕
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	55 /200 m ²	31.2 m ² /ha	37 /200 m ² 食痕:26 70%			27 /200 m ²	10／54 19%(0%)	
	35 /200 m ²	34.8 m ² /ha	20 /200 m ² 食痕:17 85%(5%)			12 /200 m ²	5／34 15%(1%)	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	124 /200 m ²	31／62 50%			38	30% ・ 58 ・ 13%	79% ・ 0.469	
	47 /200 m ²	24／47 51%(6%)			47	24.3% ・ 77 ・ 69%	74% ・ 0.524	

※数値の上段は 2013 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり	樹皮剥(本)
ヤチダモ	2	8,029	0		
ハシドイ	26	2,410	20	17	4
ハルニレ	1	1,324	0		1
シウリザクラ	1	884	0		
イタヤカエデ	3	708	0		
総計	35	13,935	21	17	5

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり(本)
シウリザクラ	47	24
総計	47	24

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	16	0.194	24.3	77	11
ハシドイ	8	0.077	5.1	135	8
ヨブスマソウ	17	0.071	7.1	59	0
オシダ	9	0.049	8.0	56	1
エゾイラクサ	10	0.031	4.1	65	0



清里町南部 (川本担当区) の斜里川林道沿いに広がる針広混交林 (広過混交林) に調査区を設定している。近くに斜里川が流れる。やや湿潤な環境のためヤチダモが優占し、ハシドイやハルニレなどが混生する。林床はクマイザサが優占し、ハシドイ (萌芽) やオシダが多く見られる。直近の SPUE は 4.4 となっている。下枝がある立木 (広葉樹) は前回の 37 本から 20 本に減少し、このうちの 85% に食痕が見られた。また、ハシドイとハルニレには樹皮剥ぎも認められた。

針葉樹を除く高さ 30cm 以上の稚樹はシウリザクラのみで、前回の 124 本から 47 本に減少し、このうちの 51% に食痕が確認された。林床植物ではクマイザサ、ハシドイに多くの食痕が確認され、クマイザサの被度は前回の 30.3% から 24.3% に、ハシドイは 9.2% から 5.1% にそれぞれ減少した。なお、近くに砂防ダムがあり、建設時に受けたと見られる地表攪乱の形跡があるが、現在は植生が回復している。

網走南部 10 の結果概要 網走南部-中 1099 林班れ小班 2013 年 9 月 20 日 / 2020 年 7 月 15 日調査

林相		地形		方位		毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
針広混交林(ミズナラ・ナ ナカマド)		緩斜面		西北西		1	2	2009-13 年 1.9	累積 2.6	食痕	
						1	2	2014-18 年 0.8	累積 1.8	シカ道・糞・食痕	
毎木	本数密度	総 BA		下枝本数、新規食痕数、率(夏季)				小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	76 /200 m ²	33.8 m ² /ha		48 /200 m ² 食痕:10 21%				33 /200 m ²	4/66 6%(2%)		
	59 /200 m ²	34.0 m ² /ha		37 /200 m ² 食痕:20 54%(43%)				43 /200 m ²	6/53 11%(0%)		
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)			林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²		
	36 /200 m ²	13/36 36%				29	59%・100・15%		86%・0.671		
	89 /200 m ²	18/89 20%(8%)				35	46.5%・105・20%		89%・0.710		

※数値の上段は 2013 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
ミズナラ	1	8,582	0		
ナナカマド	9	1,455	5	5	3
シナノキ	4	1,284	1	1	
シウリザクラ	2	828	1	1	
アオダモ	4	582	2	2	3
総計	59	13,596	43	20	6

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
シウリザクラ	86	16
トドマツ	28	
エゾマツ	5	
アオダモ	1	1
ハウチワカエデ	1	1
総計	122	18

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.495	46.5	105	4
トドマツ	9	0.079	6.5	85	0
シウリザクラ	11	0.043	6.1	65	6
ゴンゲンスゲ	16	0.032	14.8	16	0
シラネワラビ	8	0.026	5.2	34	0



清里町中央部(清里担当区)の江鳶奥林道沿いに広がる針広混交林(広過混交林)に調査区を設定している。標高は 500m を超えて、今年度の調査地の中ではかなり高い。ミズナラ、ナナカマド、シナノキなどの広葉樹が多い。林床はクマイザサが散生または密生し、ゴンゲンスゲ(サハリンイトスゲ)や高木稚樹が生育する。直近の SPUE は 0.8 となっている。下枝がある立木(広葉樹)は前回の 48 本から 37 本に減少し、このうちの 54%に食痕が見られた。また、ナナカマドとアオダモに樹皮剥ぎが認められた。

針葉樹を除く高さ 30cm 以上の稚樹は、前回の 36 本から 89 本に増加し、シウリザクラが 86 本を占めた。このうち 20%に食痕が確認された。林床植物ではクマイザサなどに食痕が確認された。

網走南部 11 の結果概要 網走南部-中 1105 林班い小班 2013 年 9 月 11 日 / 2020 年 7 月 15 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(モイワボダ イジュ・イチイ)		緩斜面	北	1	1	2009-13 年 1.8	累積 2.4	食痕
				1	2	2014-18 年 0.8	累積 1.4	シカ道・食痕
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	38 /200 m ²	57.0 m ² /ha	22 /200 m ² 食痕: 2 9%			14 /200 m ²	1 /28 4%(0%)	
	55 /200 m ²	52.5 m ² /ha	32 /200 m ² 食痕: 13 41%(19%)			36 /200 m ²	1 /44 2%(0%)	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	84 /200 m ²	20 /42 48%			39	40% ・ 72 ・ 5%	70% ・ 0.408	
	63 /200 m ²	22 /63 35%(13%)			37	48.5% ・ 94 ・ 0%	80% ・ 0.684	

※ 数値の上段は 2013 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕あり	樹皮剥(本)
モイワボダイジュ	17	4,827	10	8	
イチイ	1	3,543	0		
エゾマツ	2	3,405	1	0	
ダケカンバ	1	2,876	0		
トドマツ	8	1,828	4	0	
総計	55	21,007	37	13	1

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり(本)
シウリザクラ	39	18
ヤチダモ	8	
ヤマグラ	4	2
トドマツ	3	
ハウチワカエデ	2	
総計	66	22

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	20	0.477	48.5	94	0
ハウチワカエデ	10	0.107	10.7	99	6
シウリザクラ	4	0.043	3.6	86	2
コンロンソウ	11	0.016	5.0	24	0
ヤチダモ	2	0.009	1.3	72	0



清里町東部 (清里担当区) の智恵柵林道沿いに広がる針広混交林に調査区を設定している (清岳荘に向かう清里公園線との分岐付近)。近くにチエサクエトンビ川が流れている。農地との距離も近いが、林縁に長大な防鹿柵が設けられていて、隔離されている。モイワボダイジュが優占し、イチイ、エゾマツといった針葉樹が混生する。林床はクマイザサが散生または密生し、ゴンゲンスゲ (サハリニイトスゲ) やコンロンソウ、高木稚樹が生育する。直近の SPUE は 0.8 となっている。下枝がある立木 (広葉樹) は前回の 22 本から 32 本に増加し、このうちの 41% に食痕が見られた。樹皮剥ぎはホオノキ 1 本に認められた。

針葉樹を除く高さ 30cm 以上の稚樹はシウリザクラなどの 84 本から 63 本に減少し、このうち 35% に食痕が確認された。林床植物ではハウチワカエデに食痕が確認された。

網走南部 13 の結果概要 網走南部-東 1417 林班に小班 2013 年 9 月 19 日 / 2020 年 7 月 17 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(ダケカンバ・ミズナラ)		平坦	なし	1	2	2009-13 年 1.9	累積 2.6	食痕
				1	2	2014-18 年 1.0	累積 1.9	足跡・食痕
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	67 /200 m ²	20.2 m ² /ha	36 /200 m ² 食痕:5 14%			28 /200 m ²	0/45 0%(0%)	
	59 /200 m ²	20.9 m ² /ha	16 /200 m ² 食痕:2 13%(0%)			21 /200 m ²	3/43 7%(0%)	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²
	3 /200 m ²	0/3 0%			10	82% ・ 109 ・ 5%		84% ・ 0.899
	2 /200 m ²	1/2 50%(0%)			15	66.3% ・ 129 ・ 0%		68% ・ 0.879

※数値の上段は 2013 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	食痕あり	樹皮剥(本)
ミズナラ	5	2,418	4	0	
ダケカンバ	7	2,320	0		
トドマツ	15	1,354	12	0	
イタヤカエデ	13	846	5	0	
ナナカマド	9	641	4	2	2
総計	59	8,360	29	2	3

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕あり(本)
トドマツ	11	
エゾマツ	3	
シウリザクラ	2	1
総計	16	1

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	20	0.868	66.3	129	0
ナナカマド	2	0.004	0.4	90	1
イタヤカエデ	1	0.002	0.1	160	0
イワガラミ	6	0.001	0.6	21	1
トドマツ	3	0.001	0.2	83	0



斜里町西部(斜里担当区)の富士林道沿いに広がる針広混交林に調査区を設定している。斜里岳の山麓に位置する。農地との距離も近いが、林縁に長大な防鹿柵が設けられていて、隔離されている。ミズナラ、ダケカンバ、イタヤカエデなどの広葉樹と、トドマツが混生する。林床はクマイザサが密生し、それ以外の植物は少なく、イワガラミや高木稚樹などがまばらに生育する。直近の SPUE は 1.0 となっている。下枝がある立木(広葉樹)は前回の 36 本から 16 本に減少し、このうち 13% に食痕が見られた。樹皮剥ぎはナナカマドなどで認められた。

針葉樹を除く高さ 30cm 以上の稚樹はシウリザクラの 2 本だけで、うち 1 本に食痕が確認された。林床植物ではナナカマドやイワガラミに少数の食痕が確認された。

広葉樹の稚樹が少ないのは、ササの被圧によると考えられる。

網走南部 15 の結果概要 網走南部-東 1213 林班ら小班 2013 年 9 月 13 日 / 2020 年 7 月 17 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
針広混交林(モイワボダ イジュ・オヒョウ)		平坦	なし	1	2	2009-13 年 4.1	累積 3.6	食痕 シカ道・足跡・糞・食痕	
				1	2	2014-18 年 1.3	累積 3.2		
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	59 /200 m ²	23.1 m ² /ha	27 /200 m ² 食痕:13 48%			22 /200 m ²	4/52 8%(0%)		
	49 /200 m ²	25.7 m ² /ha	25 /200 m ² 食痕:15 60%(56%)			11 /200 m ²	4/46 9%(0%)		
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	44 /200 m ²	27/44 61%			46	34% ・ 103 ・ 11%		82% ・ 0.482	
	17 /200 m ²	11/17 65%(35%)			49	19.6% ・ 110 ・ 15%		58% ・ 0.389	

※数値の上段は 2013 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

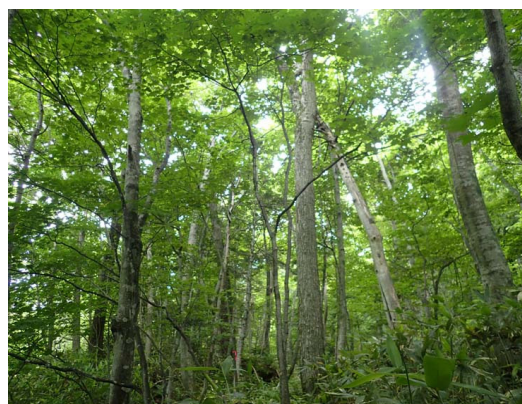
種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
モイワボダイジュ	6	2,531	3	2	
オオバボダイジュ	4	1,538	4	4	
オヒョウ	1	1,418	0		1
シウリザクラ	5	879	2	2	1
オニグルミ	1	851	0		
総計	49	10,280	28	15	4

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
トドマツ	12	
シウリザクラ	6	5
イタヤカエデ	4	1
アオダモ	2	2
ハシドイ	2	2
総計	30	11

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.232	19.6	110	3
ツタウルシ	17	0.032	9.9	28	2
オシダ	4	0.026	4.1	49	0
ゴンゲンスゲ	16	0.021	7.8	20	0
シウリザクラ	5	0.018	1.5	95	4



斜里町西部 (峰浜担当区) の峰浜林道沿いに広がる針広混交林 (広過混交林) に調査区を設定している。海別岳の山麓に位置し、近くに糠真布川が流れている。農地との距離がやや近いが、林縁に長大な防鹿柵が設けられていて、隔離されている。モイワボダイジュ、オオバボダイジュなどの広葉樹が多く生育する。林床はクマイザサが散生し、ツタウルシ、ゴンゲンスゲ (サハリニイトスゲ) が混生する。直近の SPUE は前回 4.3 から 1.3 に減少している。下枝がある立木 (広葉樹) は 25 本あり、このうち 60% に食痕が見られた。樹皮剥ぎはオヒョウやシウリザクラなどに認められた。

針葉樹を除く高さ 30cm 以上の稚樹は前回の 44 本から 17 本に減少し、このうちの 65% に食痕が確認された。林床植物ではクマイザサやツタウルシなどに食痕が確認された。

東大雪 W2 の結果概要

東大雪-W 1010 林班へ小班

2014 年 9 月 25 日 / 2020 年 8 月 24 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		斜面	北東	1	2	2010-14 年 4.0	累積 3.8	シカ道・食痕
				1	2	2014-18 年 3.9	累積 3.6	シカ道・足跡・食痕
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	39 /200 m ²	32.5 m ² /ha	20 /200 m ² 食痕:6 30%			7 /200 m ²	11／37 30%(0%)	
	32 /200 m ²	30.7 m ² /ha	15 /200 m ² 食痕:9 60%(13%)			4 /200 m ²	3／31 10%(1%)	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	4 /200 m ²	2／4 50%			36	17% ・ 57 ・ 25%	78% ・ 0.356	
	10 /200 m ²	9／10 90%(80%)			56	6.2% ・ 94 ・ 29%	71% ・ 0..369	

※数値の上段は 2014 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

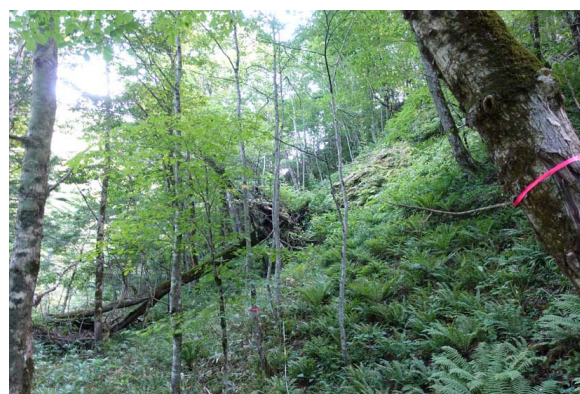
種 名	本数 (本)	総BA_ (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
シナノキ	6	6,209	3	1	
オヒョウ	8	2,582	3	1	3
ウダイカンバ	1	2,030	0		
シウリザクラ	12	1,223	7	5	
エゾマツ	1	160	0		
総計	32	12298	15	9	3

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
シウリザクラ	9	9
エゾマツ	3	
イタヤカエデ	1	
総計	13	9

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
ジュウモンジシダ	18	0.110	19.4	49	0
オシダ	12	0.092	12.7	62	0
クマイザサ	7	0.067	6.2	94	2
オクノカンスゲ	14	0.035	8.7	34	1
フッキソウ	13	0.016	5.8	27	0



本調査区は、新得北部の林道沿いの針広混交林二次林に設定している。直近の周辺 SPUE は 3.9 となっている。エゾマツもわずかに混じるが、シナノキやオヒョウなどの広葉樹がほとんどである。調査地には明瞭なシカ道が見られる。林床は全般にクマイザサに覆われているが平均被度は低く、ジュウモンジシダやオシダ、フッキソウなども多い。下枝がある立木（広葉樹）は前回の 20 本から 15 本に減少し、このうち 60%に食痕が見られた。樹皮剥ぎはオヒョウに見られたが、広葉樹全体の樹皮剥ぎ率は前回の 30%から 11%に減少した。広葉樹の稚樹は前回の 4 本から 10 本に増加したが、このうち 90%に食痕が見られた。クマイザサの食痕率は 29%、平均被度は 17%から 6.2%に減少した。SPUE の上昇は認められないが、樹皮はぎや稚樹本数の指標を除くと、各指標の数値は上昇傾向にあり、全体にエゾシカの影響は次第に高まりつつある。

東大雪 W3 の結果概要 東大雪-W 1023 林班は小班 2014 年 9 月 25 日 / 2020 年 8 月 24 日調査

林相		地形		方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
針広混交林		尾根		南	1	2	2010-14 年 4.4	累積 4.2	シカ道・食痕	
					1	2	2014-18 年 4.5	累積 4.2	シカ道・足跡・食痕	
毎木	本数密度	総 BA		下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	63 /200 m ²	30.0 m ² /ha		40 /200 m ² 食痕:1 3%			40 /200 m ²	9／54 17%(0%)		
	56 /200 m ²	31.3 m ² /ha		29 /200 m ² 食痕:5 17%(14%)			31 /200 m ²	7／48 15%(0%)		
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)			林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	33 /200 m ²	24／33 73%				26	48% ・ 70 ・ 20%		61% ・ 0.451	
	9 /200 m ²	7／9 78%(33%)				29	34.5% ・ 63 ・ 25%		42% ・ 0.257	

※数値の上段は 2014 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
トドマツ	7	5,127	2	0	3
アカイタヤ	1	2,190	0		
ヤマモミジ	2	1,614	0		
アズキナシ	2	1,143	0	1	
シナノキ	2	608	1	0	
総計	56	12,524	32	5	7

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
トドマツ	21	
シウリザクラ	7	5
エゾマツ	1	
エゾヤマザクラ	1	1
サワシバ	1	1
総計	31	7

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.224	34.5	63	5
トドマツ	5	0.017	1.5	69	0
サワシバ	10	0.005	0.9	46	4
フッキソウ	16	0.005	1.9	21	0
アキノキリンソウ	5	0.002	0.4	29	1



本調査区は、新得北部の林道沿いの針広混交林二次林に設定している。直近の周辺 SPUE は 4.5 となっている。トドマツが優占し、アカイタヤやヤマモミジなどの落葉広葉樹が混生する。調査地近くの林縁部にはシカ道が見られる。林床は全般にクマイザサに覆われている。下枝がある立木(広葉樹)は前回の 40 本から 29 本に減少し、食痕率は前回の 3%から 17%に増加した。一方で、樹皮剥ぎはアオダモで多く、広葉樹全体の樹皮剥ぎ率は 15%にのぼった(トドマツでは角こすりが見られた)。広葉樹の稚樹は前回の 33 本から 9 本に減少し、このうち 78%で食痕が見られた。クマイザサの平均被度は前回の 48%から 34.5%に減少し、食痕率は 25%だった。前回からエゾシカの影響が蓄積する傾向が確認されていたが、各指標は高めか、増加傾向を示していて今後の影響が心配される。

東大雪 W4 の結果概要 東大雪-W 1075 林班は小班 2014 年 9 月 25 日/2020 年 8 月 26 日調査

林相		地形		方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
針広混交林		緩斜面		西	1	2	2010-14 年 5.2	累積 4.1	シカ道・食痕	
					1	2	2014-18 年 3.6	累積 4.4	シカ道・足跡・食痕	
毎木	本数密度	総 BA		下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	81 /200 m ²	22.5 m ² /ha		48 /200 m ² 食痕:3 6%			40 /200 m ²	1／76 1%(0%)		
	75 /200 m ²	26.8 m ² /ha		32 /200 m ² 食痕:10 31%(6%)			34 /200 m ²	1／69 1%(0%)		
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)			林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	15 /200 m ²	4／15 27%				27	46% ・ 68 ・ 5%		57% ・ 0.361	
	6 /200 m ²	1／6 17%(0%)				28	51.5% ・ 77 ・ 15%		58% ・ 0.421	

※数値の上段は 2014 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
ミズナラ	12	5,694	4	2	
イタヤカエデ	5	1,115	0		
アカイタヤ	3	765	1	0	
ハウチワカエデ	23	588	16	3	
エゾヤマザクラ	4	373	2	1	
総計	75	9,451	38	10	1

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
トドマツ	14	
エゾマツ	4	1
サウシバ	3	1
アオダモ	1	
ホオノキ	1	
総計	24	2

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.400	51.5	77	3
ゴンゲンスゲ	18	0.009	3.8	17	0
エゾマツ	2	0.005	0.7	81	0
ミズナラ	13	0.004	0.7	27	2
トドマツ	4	0.002	0.6	28	0



本調査区は、新得北部の林道沿いの針広混交林二次林に設定している。直近の周辺 SPUE は前回の 5.2 から 3.6 に減少している。トドマツやエゾマツもわずかに混じるが、ミズナラやイタヤカエデなどの落葉広葉樹がほとんどである。調査地近くの林縁部にはシカ道が見られる。林床は全般にクマイザサに覆われている。下枝がある立木(広葉樹)は前回の 48 本から 32 本に減少し、食痕率は 6% から 31% に増加した。広葉樹全体の樹皮剥ぎ率は 1% と低かった。広葉樹の稚樹は前回の 15 本から 6 本に減少し、このうち 17% で食痕が見られた。林床のクマイザサの平均被度は 51.5% で、食痕率は 15% だった。全体にエゾシカの影響はまだ深刻にはなっていないが、下枝や稚樹の減少が認められる。

東大雪 C1 の結果概要 東大雪-W 1313 林班ぬ小班 2014 年 9 月 23 日/2020 年 8 月 25 日調査

林相		地形		方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
針広混交林		平坦			1	2	2010-14 年 6.3	累積 4.4	食痕	
					1	2	2014-18 年 2.8	累積 4.4	シカ道・食痕	
毎木	本数密度	総 BA		下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	65 /200 m ²	23.8 m ² /ha		32 /200 m ² 食痕:5 16%			21 /200 m ²	6／63 10%(0%)		
	59 /200 m ²	27.0 m ² /ha		22 /200 m ² 食痕:9 41%(5%)			17 /200 m ²	9／58 16%(0%)		
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)			林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	2 /200 m ²	0／2 0%				16	47% ・ 60 ・ 25%		57% ・ 0.314	
	0 /200 m ²	－／－ －%				16	53.3% ・ 68 ・ 0%		56% ・ 0.380	

※数値の上段は 2014 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
アカイタヤ	5	2,446	0		
ミズナラ	4	2,160	2	0	1
コシアブラ	6	1,738	0		
シナノキ	12	850	6	2	
アオダモ	12	838	8	6	7
総計	59	10,231	22	9	9

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
なし		

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.373	53.3	68	0
フキソウ	16	0.005	2.2	22	0
ゴンゲンスゲ	4	0.001	0.4	17	0
ミズナラ	7	0.000	0.2	19	0
ナライシダ	1	0.000	0.1	27	0



本調査区は、十勝川上流域の林道沿いの針広混交林二次林に設定している。直近の周辺 SPUE は前回の 6.3 から 2.8 と減少している。トドマツやエゾマツもわずかに混じるが、アカイタヤやミズナラ、コシアブラなどの落葉広葉樹がほとんどを占める。林床は全般にクマイザサに覆われている。下枝がある立木(広葉樹)は前回の 32 本から 22 本に減少し、食痕率は前回の 16% から 41% に増加した。樹皮剥ぎはアオダモで多く見られ、広葉樹全体の樹皮剥ぎ率は 16% だった。広葉樹の稚樹は前回の 2 本からゼロになった。林床のクマイザサの平均被度は、前回の 47% から 53.3% に増加し、食痕率は 25% からゼロになった。この調査区では、全体にエゾシカの影響はまだ深刻にはなっていない。

東大雪 C2 の結果概要 東大雪-中 1081 林班い小班 2014 年 9 月 24 日 / 2020 年 8 月 27 日調査

林相		地形		方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
針広混交林		緩斜面		北	1	2	2010-14 年 6.3	累積 4.4	シカ道・食痕	
					1	2	2014-18 年 2.8	累積 4.4	シカ道・足跡・食痕	
毎木	本数密度	総 BA		下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	57 /200 m ²	24.3 m ² /ha		33 /200 m ² 食痕:4 12%			27 /200 m ²	15／55 27%(0%)		
	45 /200 m ²	28.2 m ² /ha		27 /200 m ² 食痕:12 44%(4%)			16 /200 m ²	8／43 19%(1%)		
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)			林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	4 /200 m ²	0／4 0%				32	30% ・ 49 ・ 35%		46% ・ 0.211	
	3 /200 m ²	0／3 0%				36	31.8% ・ 47 ・ 15%		37% ・ 0.171	

※数値の上段は 2014 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

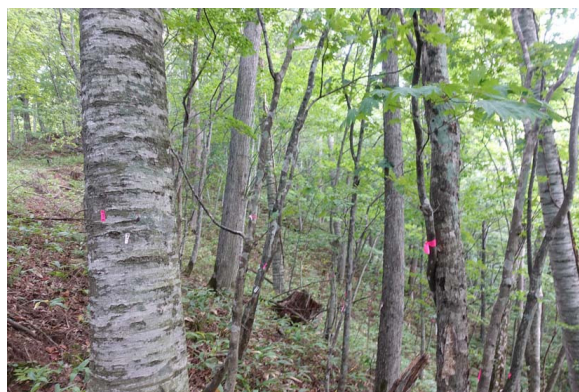
種 名	本数 (本)	総BA (cm)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
シナノキ	5	5,500	1	0	
トドマツ	2	2,822	0		
ミズナラ	2	1,082	1	0	
アオダモ	11	605	9	9	7
サワシバ	11	523	10	3	
総計	45	11,298	27	12	8

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
トドマツ	22	
ヤマモミジ	3	
総計	25	

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.162	31.8	47	3
ゴンゲング	19	0.003	1.7	18	0
ナンブソウ	17	0.001	1.1	10	0
トドマツ	6	0.001	0.3	27	0
フッキソウ	13	0.001	0.5	15	0



本調査区は、十勝川上流域の林道沿いの針広混交林二次林に設定している。直近の周辺 SPUE は前回の 6.3 から 2.8 と減少している。シナノキやミズナラなどの落葉広葉樹とトドマツが混じる。林床は全般にクマイザサに覆われているが、密生ではない。下枝がある立木（広葉樹）は前回の 33 本から 27 本に減少し、食痕率は前回の 12% から 44% に増加した。樹皮剥ぎはアオダモで多く見られたが、広葉樹全体の樹皮剥ぎ率は前回の 27% から 19% に減少した。広葉樹の稚樹は前回の 4 本から 3 本に減少し、食痕は見つからなかった。林床のクマイザサの平均被度は 31.8% で、食痕率は 15% だった。この調査区では、全体にエゾシカの影響はまだ深刻にはなっていない。

東大雪 C4 の結果概要 東大雪-中 1247 林班は小班 2014 年 9 月 24 日 / 2020 年 8 月 27 日調査

林相		地形		方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
針広混交林		斜面		南	1	2	2010-14 年 6.4	累積 3.9	シカ道・越冬地・食痕	
					1	2	2014-18 年 3.9	累積 4.3	シカ道・糞・食痕	
毎木	本数密度	総 BA		下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	49 /200 m ²	17.8 m ² /ha		38 /200 m ² 食痕:2 5%			20 /200 m ²	9 /49 18%(0%)		
	43 /200 m ²	18.0 m ² /ha		26 /200 m ² 食痕:7 27%(15%)			17 /200 m ²	4 /43 9%(0%)		
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)			林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	0 /200 m ²	- / - -%				44	34% ・ 43 ・ 47%		46% ・ 0.254	
	1 /200 m ²	0 / 1 0%				53	24.1% ・ 50 ・ 14%		41% ・ 0.268	

※数値の上段は 2014 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
ハルニレ	2	2,409	1	0	
ミズナラ	3	2,063	1	0	1
サワシバ	26	1,401	17	2	1
シナノキ	2	625	0		
アカイタヤ	1	471	0		
総計	43	7,391	26	7	4

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
トドマツ	3	
オヒョウ	1	
総計	4	

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m/m)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	14	0.202	24.1	50	2
オシダ	10	0.023	5.3	35	0
ヨブスマソウ	7	0.015	1.4	71	0
フッキソウ	17	0.010	3.1	22	0
クジャクシダ	9	0.006	2.1	28	0



本調査区は、十勝川上流域の林道沿いの針広混交林二次林に設定している。直近の周辺 SPUE は 6.4 から 3.9 に減少している。調査地内外にシカ道が多数見られ、周辺一帯が規模の大きな越冬地となっている。ハルニレやミズナラなどの落葉広葉樹に、わずかにトドマツ、エゾマツが混じる。林床は全般にクマイザサに覆われているが、密生ではなく、欠損部も多い。ササ類が少ないのは、シカによる採餌圧によるものと思われる。下枝がある立木(広葉樹)は前回の 38 本から 26 本に減少し、食痕率は前回の 5%から 27%に増加した。樹皮剥ぎはミズナラなどで見られたが、広葉樹全体の樹皮剥ぎ率は前回の 18%から 9%に減少した。広葉樹の稚樹はオヒョウ 1 本のみだった。林床のクマイザサの平均被度は、前回の 34%から 24.1%に減少したが、食痕率は 47%から 14%に減少した。本調査地では、全体にエゾシカの影響が強く現れており、今後のさらなる影響の蓄積が予想される。

東大雪 ME1 の結果概要 東大雪-中 2111 林班ね 1 小班 2014 年 9 月 24 日 / 2020 年 8 月 26 日調査

林相		地形		方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡		
針広混交林		斜面		北東	1	2	2010-14 年 6.6	累積 5.8	食痕		
					1	2	2014-18 年 3.9	累積 4.4	シカ道・食痕		
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)				小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)			
	55 /200 m ²	14.8 m ² /ha	25 /200 m ² 食痕:1 4%				22 /200 m ²	2／40 5%(0%)			
	49 /200 m ²	14.0 m ² /ha	18 /200 m ² 食痕:4 22%(11%)				18 /200 m ²	2／39 5%(0%)			
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)			林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²		
	25 /200 m ²	4／26 16%				30	43% ・ 64 ・ 20%		70% ・ 0.447		
	35 /200 m ²	26／35 74%(17%)				25	34.4% ・ 63 ・ 0%		55% ・ 0.335		

※数値の上段は 2014 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

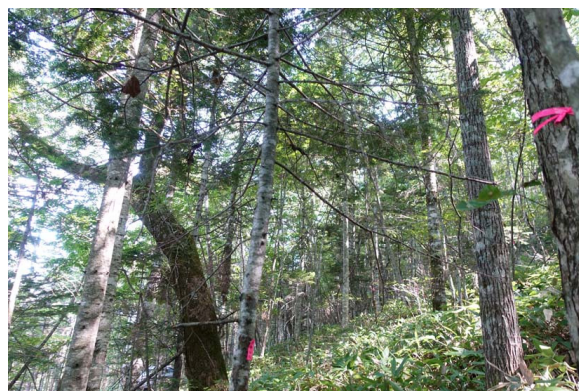
種 名	本数 (本)	総BA (cm)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
トドマツ	9	1,336	1	0	2
ホオノキ	4	1,129	1	1	
シナノキ	9	836	3	3	
ウダイカンバ	1	619	0		
バッコヤナギ	2	483	0		
総計	49	5,613	20	4	2

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
シウリザクラ	35	26
トドマツ	12	
エゾマツ	4	
総計	51	26

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
ミヤコザサ	20	0.222	34.4	63	0
トドマツ	12	0.053	6.3	66	0
オンダ	6	0.024	4.9	43	0
シラネワラビ	12	0.013	3.4	23	0
フッキソウ	20	0.008	2.7	26	0



本調査区は、鹿追北部の林道沿いの針広混交林二次林に設定している。直近の周辺 SPUE は前回の 6.6 から 3.9 に減少した。針葉樹のトドマツ、エゾマツと、ホオノキやシナノキなどの落葉広葉樹が混じる。林床は全般にクマイザサに覆われているが、密生ではない。下枝がある立木(広葉樹)は前回の 25 本から 18 本に減少し、食痕率は前回の 4% から 22% に増加した。樹皮剥ぎは広葉樹では見られず、トドマツで角こすりが見られた。広葉樹の稚樹は、前回の 26 本から 35 本に増加し、シウリザクラが多くを占めたが、食痕率は前回の 16% から 74% に増加した。林床のクマイザサの平均被度は、前回の 43% から 34.4% に減少し、食痕率は前回の 20% からゼロになった。全体にエゾシカの影響はまだ深刻にはなっていないが、稚樹の食痕率は高めとなっていた。

東大雪 ME2 の結果概要 東大雪-中 2112 林班な小班 2014 年 9 月 24 日 / 2020 年 8 月 26 日調査

林相		地形		方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
針広混交林		緩斜面		南西	1	2	2010-14 年 6.6	累積 5.8	食痕	
					1	2	2014-18 年 3.9	累積 4.4	シカ道・食痕	
毎木	本数密度	総 BA		下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	50 /200 m ²	15.8 m ² /ha		32 /200 m ² 食痕:5 16%			25 /200 m ²	6／50 12%(2%)		
	47 /200 m ²	16.5 m ² /ha		29 /200 m ² 食痕:12 41%(21%)			21 /200 m ²	7／47 15%(0%)		
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)			林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	5 /200 m ²	0／5 0%				34	70% ・ 76 ・ 15%		91% ・ 0.617	
	1 /200 m ²	0／1 0%				41	71.0% ・ 79 ・ 0%		82% ・ 0.628	

※数値の上限は 2014 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
カツラ	5	4,296	2	2	
ミズナラ	1	608	0		
ヤマモミジ	9	549	4	0	1
ハシドイ	13	496	8	5	3
イタヤカエデ	13	452	11	4	2
総計	47	6,601	29	12	7

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
トドマツ	1	
ヤマモミジ	1	
総計	2	

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
ミヤコザサ	20	0.584	71.0	79	0
オシダ	6	0.016	2.3	57	0
ミヤマベニシダ	4	0.009	1.7	50	0
フッキソウ	16	0.007	2.2	25	0
ジウモンシダ	6	0.002	0.6	37	0



本調査区は、鹿追北部の林道沿いの針広混交林二次林に設定している。直近の周辺 SPUE は 6.6 から 3.9 に減少した。カツラやミズナラなどの落葉広葉樹と、わずかにトドマツが混じる。林床は全般にミヤコザサに覆われている。下枝がある立木（広葉樹）は前回の 32 本から 29 本に微減し、食痕率は前回の 16%から 41%に増加した。樹皮剥ぎはハシドイなどで見られ、広葉樹全体の樹皮剥ぎ率は 15%だった。広葉樹の稚樹は、前回の 5 本から 1 本に減少したが、食痕率は 80%からゼロになった。林床のササの平均被度は 71%で、食痕率は前回の 15%からゼロになった。全体にエゾシカの影響は深刻にはなっていない。

東大雪 E3 の結果概要

東大雪-東

29 林班た小班

2014 年 9 月 23 日 / 2020 年 8 月 25 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		平坦		1	2	2010-14 年 2.9	累積 3.6	食痕
				1	2	2014-18 年 2.5	累積 2.9	シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	90 /200 m ²	48.3 m ² /ha	53 /200 m ² 食痕:2 4%			65 /200 m ²	3／85 4%(0%)	
	86 /200 m ²	43.8 m ² /ha	36 /200 m ² 食痕:0 0%			63 /200 m ²	0／83 0%(0%)	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	14 /200 m ²	0／14 0%			17	78% ・ 72 ・ 0%	113% ・ 0.871	
	17 /200 m ²	0／17 0%			22	59.8% ・ 74 ・ 0%	90% ・ 0.743	

※数値の上段は 2014 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

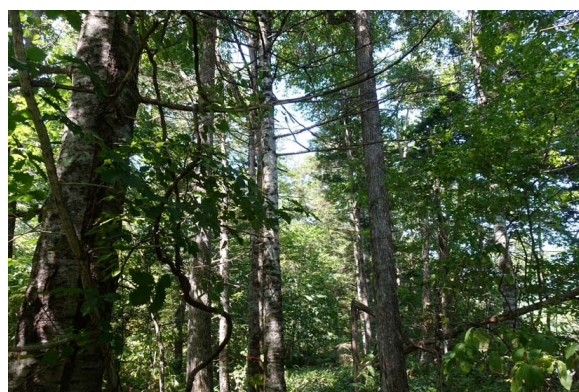
種 名	本数 (本)	総BA (cm)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
トドマツ	3	6,262	0		
ヤチダモ	2	3,641	1	0	
ハルニレ	2	3,221	0		
イタヤカエデ	4	2,833	0		
シナノキ	4	853	1	0	
総計	86	17,501	36	0	

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
リウツギ	10	
アオダモ	3	
ハシドイ	2	
オヒョウ	1	
トドマツ	1	
総計	18	

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m/m)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
ミヤコザサ	20	0.448	59.8	74	0
ハシドイ	3	0.101	6.0	160	0
オシダ	7	0.094	11.4	71	0
エゾニワトコ	2	0.042	2.5	173	0
オシダ	5	0.030	4.8	58	0



本調査区は、上士幌南部（清水谷）の林道沿いの針広混交林二次林に設定している。直近の周辺 SPUE は、前回 2.9、今回は 2.5 となっている。針葉樹のトドマツと、ヤチダモやハルニレなどの落葉広葉樹が混じる。林床は全般にミヤコザサに覆われている。下枝がある立木（広葉樹）は前回の 53 本から 36 本に減少し、食痕率は前回の 4%からゼロとなった。樹皮剥ぎは、前回の 3 本からゼロとなった。広葉樹の稚樹は、前回の 14 本から 17 本に微増し、食痕率は前回、今回ともゼロだった。林床のミヤコザサの平均被度は、前回の 78%から 59.8%に減少し、食痕率は前回、今回ともゼロだった。全体にエゾシカの影響は今のところ軽微となっている。

東大雪 E4 の結果概要 東大雪-東 29 林班ね小班 2014 年 9 月 22 日 / 2020 年 8 月 25 日調査

林相		地形		方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡		
針広混交林		平坦			1	2	2010-14 年	4.9	累積	4.9	食痕
					1	2	2014-18 年	4.9	累積	5.2	シカ道・足跡・食痕
毎木	本数密度	総 BA		下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満		樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	37 /200 m ²	20.0 m ² /ha		27 /200 m ² 食痕:4 15%			17 /200 m ²		2/31 7%(0%)		
	28 /200 m ²	21.5 m ² /ha		20 /200 m ² 食痕:5 25%(0%)			11 /200 m ²		0/27 0%(0%)		
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)			林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²		
	13 /200 m ²	1/13 8%				22	36% ・ 47 ・ 7%		88% ・ 0.550		
	5 /200 m ²	2/5 40%(40%)				39	20.0% ・ 53 ・ 23%		70% ・ 0.479		

※数値の上段は 2014 年調査結果。※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

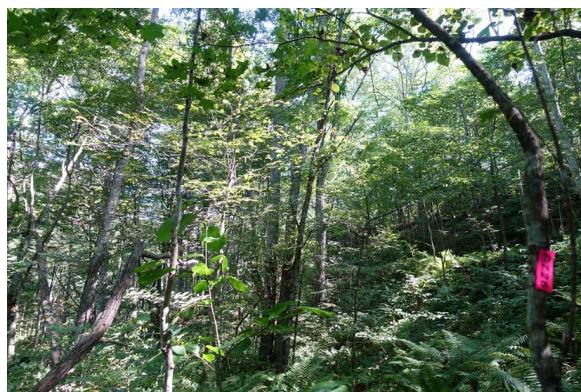
種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
ヤチダモ	3	6,173	0		
トドマツ	1	1,216	0		
シナノキ	5	353	4	1	
オオバボダイジュ	1	259	1	1	
キハダ	1	183	0		
総計	28	8,581	20	5	

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
アオダモ	2	2
オニグルミ	1	
サワシバ	1	
シウリザクラ	1	
総計	5	2

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
オシダ	16	0.173	23.6	62	0
ミヤコザサ	13	0.126	20.0	53	3
ハシドイ	4	0.118	7.0	169	3
フッキソウ	20	0.036	12.5	28	0
カササゲ	16	0.007	2.3	31	1



本調査区は、上土幌南部(清水谷)の林道沿いの針広混交林二次林に設定している。直近の周辺 SPUE は、前回、今回とも 4.9 となっている。針葉樹のトドマツと、ヤチダモやシナノキなどの落葉広葉樹が混じる。林床はオシダまたはミヤコザサが優占する。下枝がある立木(広葉樹)は前回の 27 本から 20 本に減少し、食痕率は 15% から 25% に増加した。樹皮剥ぎ(生存木)は前回の 2 本からゼロとなった。広葉樹の稚樹は、前回の 13 本から 5 本に減少し、食痕率は 8% から 40% に増加した。林床のミヤコザサの平均被度は、前回の 36% から 20% に減少し、食痕率は 7% から 23% に増加した。全体にエゾシカの影響は今のところそれほど顕著にはなっていない。

胆振東部 33 柵内の結果概要

1357 林班 い 2 小班

2020 年 7 月 27 日調査(防鹿柵)

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		平坦		1	2	2009-13 年 6.1	累積 4.8	シカ道・食痕
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	38 /200 m ²	21.9 m ² /ha	22 /200 m ² 食痕:10 45%(36%)			12 /200 m ²	4/37 11%(0%)	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²
	23 /200 m ²	9/23 39%(4%)			27	18.2%・32・68%		37%・0.129

※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
ミズナラ	5	3,733	3	0	
サワシバ	6	1,028	3	1	
ヤマモミジ	2	959	1	0	
シナノキ	2	614	2	2	
イタヤカエデ	5	540	2	0	
総計	38	8,757	23	10	4

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
ツリバナ	7	1
アオダモ	6	2
アズキナシ	5	4
サワシバ	2	2
キタコブシ	1	
総計	23	9

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
ミヤコザサ	19	0.059	18.1	32	13
オシダ	16	0.054	13.2	37	0
アオダモ	15	0.010	2.1	16	3
フッキソウ	14	0.001	0.6	13	1
シナノキ	14	0.000	0.1	6	0



苫小牧市苫小牧担当区の丸山林道沿いの平坦地にある広葉樹林に設定している防鹿柵調査区である。最近 5 年の SPUE は 6.1 と高密度であり、累積 SPUE は 4.8 と比較的高い。

最優占種はミズナラで、サワシバ、ヤマモミジ、シナノキなどからなる。林床の総被度は 37% と低い、ミヤコザサやオシダが優占する。

下枝の密度は 22 本で、小径木も 12 本と少ない。樹皮剥ぎ率は 11% で新しいものは見られない。下枝食痕率は 45% で夏季食痕率も 36% と高かった。稚樹は 23 本で、ツリバナ、アオダモは、アズキナシなど、シカの嗜好性の高い樹種も見られた。食痕率は 39% と高かった。林床の出現種は 27 種でミヤコザサは約 18% を占め、食痕率は 68% と極めて高い。

一年を通じての利用されており、エゾシカの被食の影響を強く受けており、林分には影響が蓄積されつつある状況である。

胆振東部 33 柵外の結果概要

1357 林班 い 2 小班 2020 年 7 月 27 日調査(対照区)

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		平坦		1	2	2009-13 年 6.1	累積 4.8	シカ道・食痕
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	47 /200 m ²	22.6 m ² /ha	21/200 m ² 食痕:9 43%(33%)		13 /200 m ²	4/47 9%(0%)		
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度%・現存量 m ³ /m ²		
	15 /200 m ²	1/15 1% (0%)		39	17.7% ・ 30 ・ 90%	26% ・ 0.073		

※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
ミズナラ	5	3,199	2	1	
イタヤカエデ	10	1,866	2	0	
サワシバ	15	1,617	10	5	
ホオノキ	6	836	1	1	
ミズキ	1	503	0		
総計	47	9,049	21	9	4

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
ヤマモミジ	4	
アオダモ	3	
アズキナシ	3	1
ツリバナ	2	
キタコブシ	1	
総計	15	1

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
ミヤコザサ	20	0.053	17.7	30	18
オンダ	15	0.008	3.2	22	0
ミミコウモリ	2	0.00297	0.65	43	0
ヤマドリゼンマイ	2	0.002	0.5	41	0
アオダモ	20	0.001	0.8	13	3



防鹿柵調査区(胆振東部 33 柵内)と隣接するように設定している対照区である。林相は広葉樹林で、最優占種はミズナラで、イタヤカエデ、サワシバなどからなる。林床の総被度は 26%と低い、ミヤコザサやオンダが優占する。

下枝の密度は 21 本で、小径木も 13 本と柵調査区とほぼ同様である。樹皮剥ぎ率は 9%で新しいものは見られない。下枝食痕率は 45%で夏季食痕率も 33%と柵調査区と同様に高かった。稚樹は 15 本で、ヤマモミジ、アオダモは、アズキナシなどが多いが、新規の食痕率はほとんど見られなかった。林床の出現種は 39 種で、ミヤコザサは約 18%を占め、食痕率は 90%とほとんどの場所で食痕が見られた。

一年を通じての利用されており、エゾシカの被食の影響を強く受けており、林分には影響が蓄積されつつある状況である。

日高南部 21 柵内の結果概要 2143 林班 い 2 小班 2020 年 7 月 27 日調査(防鹿柵)

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		斜面	南	1	2	2009-13 年 4.4	累積 4.9	シカ道・足跡・食痕
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	50 /200 m ²	19.3 m ² /ha	29 /200 m ² 食痕:9 31%(21%)			24 /200 m ²	5/50 10%(0%)	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	5 /200 m ²	2/5 40%(20%)		38	0% ・ - ・ 0%		28% ・ 0.112	

※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
イタヤカエデ	20	2,228	11	2	
サワシバ	5	2,223	1	0	
シナノキ	2	1,189	2	1	
オオバボダイジュ	1	1,004	1	1	
アオダモ	4	620	4	3	4
総計	50	7,710	29	9	5

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
キタコブシ	5	2
アオダモ		
アズキナシ		
イタヤカエデ		
エゾマツ		
総計	5	2

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
キタコブシ	4	0.031	3.1	61	2
オシダ	17	0.031	7.2	40	5
カノツメソウ	20	0.015	3.3	38	6
モミジガサ	13	0.010	2.3	30	1
フッキソウ	20	0.007	3.2	19	0



新冠町東川担当区のウタルカップ林道林道沿いの南東の緩斜面にある広葉樹林に設定している防鹿柵調査区である。最近 5 年の SPUE は 4.4 であり、累積 SPUE は 4.9 と比較的高水準で推移している。

最優占種はイタヤカエデ、サワシバ、シナノキ、オオバボダイジュなどからなる。林床の総被度は 28%と低く、オシダやカノツメソウ、フッキソウなどが多い。

下枝の密度は 29 本で、小径木も 24 本である。樹皮剥ぎ率は 10%で新しいものは見られない。下枝食痕率は 31%で夏季食痕率も 21%とやや高かった。稚樹は 5 本のみで、シカの嗜好性の高いキタコブシのみだったが食痕率は 40%と高かった。林床の出現種は 38 種で周囲にはミヤコザサは見られるもの、方形区内には見られなかった。キタコブシ、オシダなど嗜好性の低い植物にも食痕が見られた。エゾシカの被食の影響を強く受け続けてきたと推察され、林分には影響がかなり蓄積されている状況である。

日高南部 21 柵外の結果概要 2143 林班 い 2 小班 2020 年 7 月 27 日調査(対照区)

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		斜面	南	1	2	2009-13 年 4.4	累積 4.9	シカ道・足跡・食痕
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、新規食痕数、率(夏季)			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	59 /200 m ²	22.4 m ² /ha	37 /200 m ² 食痕:8 22%(5%)			31 /200 m ²	1 /59 2%(0%)	
稚樹	本数密度	新規食痕数、食痕率(夏季)		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度%・現存量 m ³ /m ²	
	1 /200 m ²	0 /1 0%			39	0% ・ - ・ 0%	15% ・ 0.046	

※稚樹は針葉樹を除く。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm)	下枝あり (本)	食痕 あり	樹皮 剥(本)
ホオノキ	10	3,611	9	4	
シナノキ	2	2,576	2	1	
イタヤカエデ	35	1,308	19	1	
オオバボダイジュ	2	970	1	1	
コシアブラ	2	347	0		
総計	59	8,945	37	8	1

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	食痕 あり(本)
キタコブシ	1	
アオダモ		
アズキナシ		
イタヤカエデ		
エゾマツ		
総計	1	

林床植生調査結果-主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (? /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
オシダ	17	0.028	8.0	35	0
カノツメソウ	17	0.004	1.3	29	4
モミジガサ	10	0.003	1.1	21	0
ムカゴイラクサ	13	0.002	1.0	19	3
ナガバハエドクソウ	11	0.001	0.6	17	4



防鹿柵調査区(日高南部 21 柵内)と隣接するように設定している対照区である。林相は広葉樹林で、優占種はホオノキ、シナノキ、イタヤカエデなどである。林床の総被度は 15%とかなり低い、オシダが優占する。

下枝の密度は 37 本で、小径木も 31 本と柵調査区と比べてやや高かった。樹皮剥ぎ率は 2%と低く新しいものは見られない。下枝食痕率は 22%で夏季食痕率は 5%と柵調査区と比べてやや低かった。稚樹はキタコブシ 1 本のみでほとんど見られなかった。林床の出現種は 39 種で、カノツメソウ、ムカゴイラクサ、ナガバハエドクソウなど多くの植物に食痕が見られた。

一年を通じての利用されており、エゾシカの被食の影響を強く受けており、林分には影響が蓄積されつつある状況である。